

## 報 告

# 高等学校における保健学習に関する調査報告 —至誠館大学教職課程（中高保健体育）履修学生に着目して—

岡崎祐介\*1

キーワード：科目保健、保健の学習状況、価値・期待

## 1 はじめに

至誠館大学では、2012(平成24)年から教職課程が開講され、中学校及び高等学校の保健体育科教諭一種免許状の取得が可能となっている。近年では教員免許状の取得を目指す学生は増加傾向にある。

しかしながら、保健体育の教師を目指す学生は、その多くが「体育」を志向しており、「保健」の授業を行う意識や保健学習の重要性を十分に認識していないケースがみられる。中川・高橋(2010)<sup>1)</sup>は、保健体育教師が保健の授業が苦手な要因として、もともと『体育・スポーツ志向者』であることから保健への関心が低いと述べている。これについては運動部活動へ所属する学生が多い本学においても同様であると推察される。また、中川・高橋は子どもたちの活動がある程度活発に展開されていく体育に対して、保健は学ばせたい内容と教材を明確にし、構成しなければ子どもからの反応も芳しくない<sup>2)</sup>と述べている。これまで親しんできたスポーツ経験や体育のイメージが保健の授業に活かされることはあまり期待されず、大学の教員養成課程に入学して初めて保健と真剣に向き合うことも学生にとっては保健学習をイメージしがたいものになっていると思われる。さらに、『雨降り保健』という言葉に象徴されるように、雨が降った時だけ実施される保健授業で、あたかも「体育」の付属物のように扱われていた学校教育の中での保健のあり方も影響している。このような保健授業に対する認識の教師に教えられ、体育の魅力だけは理解して教師を目指す学生は相当数いるとされている。<sup>2)</sup>

このような現状の中で、学生の保健授業への興味を引き出し、その重要性を十分に認識させていくためには、本学において保健の授業づくりについて学ぶ科目の内容を充実させていくことが肝要であると考えられる。

そこで本調査では、本学における保健学習のさらなる充実を図るため、教職課程を履修する学生の保健学習に対する現状把握を行い、その課題について検討していくための基礎資料を得ることを目的とした。

## 2 研究方法

### 2-1 調査対象者

2020年10月に至誠館大学に在籍する1年次～3年次の教職課程(中高保健体育)履修者を対象としてアンケート調査を行った。アンケートはインターネット上で作成し、対象学生に直接回答を依頼し配信した。調査人数は57名(1年生25名、2年生19名、3年生13名)であり、有効回答数は50件(回収率87.7%)であった。

### 2-2 調査項目

青柳(2015)、戸田・笹生(2018)の調査項目を参考に高等学校での保健学習に関する内容、学習教材、学習意欲、保健学習に対するイメージ、既習内容における現在の活用状況、現在の健康に関する認識、高等学校での保健の学習状況について、4件法もしくは5件法で尋ねた。独自に設定した項目である教員免許の取得を希望する理由については自由記述とした。

\*1 至誠館大学 ライフデザイン学部

### 2-3 分析方法

得られたデータの集計には、統計ソフト IBM SPSS statistics Ver23 を使用した。サンプル全体の傾向を把握するために単純集計を行った。

### 2-4 倫理的配慮

調査の主旨、個人情報保護方針、結果は統計的に処理されるため個人が特定されることはないこと、調査への参加は任意であり、回答の有無を踏まえて成績には一切関係しないことなどに関する説明を調査票へ記載した。また、調査開始時に調査責任者が直接口頭で対象者へこれらの説明を行った。回答をもって調査への同意を得たと判断した。

## 3 結果および考察

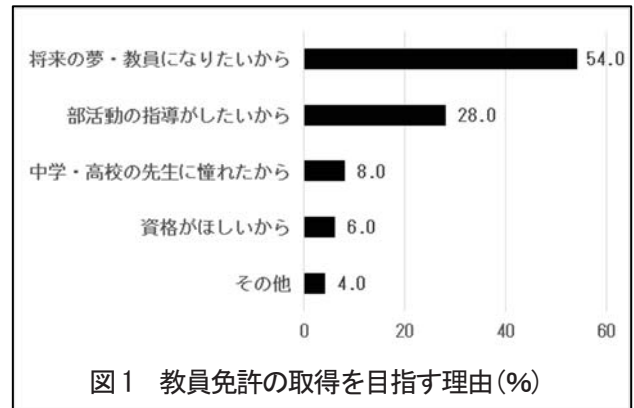
### 3-1 本調査の回答者

本調査の回答者 50 名の内訳は、男性 38 名(76.0%)、女性 12 名(24.0%)であった。学年は、1 年次 24 名(48.0%)、2 年次 13 名(26.0%)、3 年次 13 名(26.0%)であった。

### 3-2 教員免許の取得を目指す理由

図 1 は回答者が教員免許の取得を目指す理由を示している。最も回答が多かったのは「将来の夢・教員に

なりたいたから(54.0%)」であり、次いで、「部活動の指導がしたいから(28.0%)」、「中学、高校の先生に憧れたから(8.0%)」、「資格がほしいから(6.0%)」、「その他(4.0%)」であった。



### 3-3 保健学習に対する考え方・イメージ

表 1 は、回答者の高等学校における保健学習に対する考え方・イメージについて示している。全体的に「そう思う」や「どちらかと言えばそう思う」と回答した者が多く、保健の学習に対して前向きに捉えている学生が多いことがわかった。特に「保健の学習は大切だ(そう思う : 70%)」や「保健の学習は学校での勉強において必要だ(そう思う : 68.0%)」は高い値を示した。一方で、「保健の学習は楽しい」には 4 名がそう思わな

表 1 高等学校での保健学習に対する考え方・イメージ

質問項目	回答					合計	
	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない		
1) 保健の学習が好きだ	度数	13	29	4	1	3	50
	%	26.0	58.0	8.0	2.0	6.0	100.0
2) 保健の学習は大切だ	度数	35	15	0	0	0	50
	%	70.0	30.0	0	0	0	100.0
3) 保健の学習をすれば、私の今の生活に役立つ	度数	32	15	2	0	1	50
	%	64.0	30.0	4.0	0	2.0	100.0
4) 保健の学習をすれば、健康な生活ができるようになる	度数	28	18	2	1	1	3
	%	56.0	36.0	2.0	4.0	2.0	100.0
5) 保健の学習は面白い	度数	17	26	3	2	2	50
	%	34.0	52.0	6.0	4.0	4.0	100.0
6) 保健の学習は健康な生活を送るために重要だ	度数	32	18	0	0	0	50
	%	64.0	36.0	0	0	0	100.0
7) 保健の学習をすれば心や身体の不安や悩みを軽くしたり、解決したりするのに役立つ	度数	26	20	2	0	2	50
	%	52.0	40.0	4.0	0	4.0	100.0
8) 保健の学習は楽しい	度数	15	24	4	4	3	50
	%	30.0	48.0	8.0	8.0	6.0	100.0
9) 保健の学習は学校での勉強において必要だ	度数	34	15	1	0	0	50
	%	68.0	30.0	2.0	0	0	100.0
10) 保健の学習をすれば社会に出てからの生活に役立つ	度数	29	18	1	0	2	50
	%	58.0	36.0	2.0	0	4.0	100.0
11) 保健の学習をすれば国民全体の健康づくりに役立つ	度数	25	20	2	0	3	50
	%	50.0	40.0	4.0	0	6.0	100.0

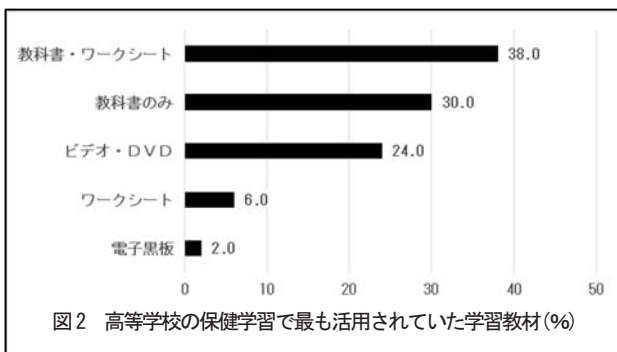
N=50

いと回答しており、大学での保健学習に関する授業での取り組みが非常に重要であると思われる。

以上の結果により、今回の回答者は高等学校での保健学習の重要性を強く感じており、自身も保健の学習に対して前向きに取り組んでいたことがうかがえる。また、いずれの項目においても、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答において概ね先行研究よりも高い値を示した。このことは、先行研究では教職課程を履修しない一般学生も調査対象にしていたのに対し、本調査の回答者が全員教職課程を履修していることも影響していると考えられる。青柳が述べているように、今後は保健学習に対する興味・関心や意欲を持たせるような学習指導の在り方や授業の工夫が必要であるといえる。

### 3-4 保健学習で最も多く活用されていた学習教材

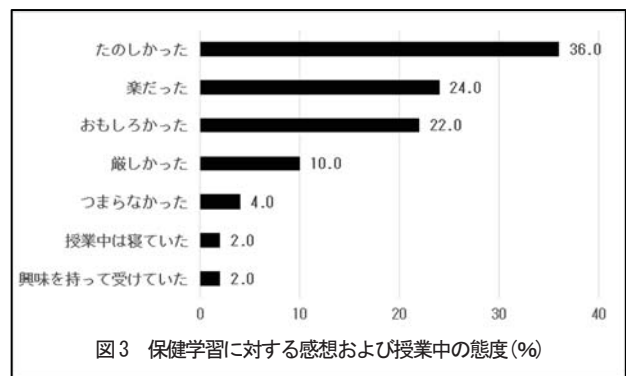
図2は高等学校での保健学習において最も多く活用されていた学習教材について示している。図2のとおり、「教科書・ワークシート(38.0%)」が最も多く、次いで、「教科書のみ(30.0%)」、「ビデオ・DVD(24.0%)」、「ワークシート(6.0%)」、「電子黒板(2.0%)」であった。この結果は先行研究と同様の傾向を示している。今回の回答者では「ビデオ・DVD」や「電子黒板」といった視聴覚教材を用いた授業を受けてきた学生は少なかった。杉山ほか(2009)は、視聴覚教材は多様な情報を伝えられることや注目を引きやすい教材として有効であると指摘している。生徒に保健学習への興味・関心を持たせるための手段として、教職課程を履修する学生には十分な情報リテラシーを身に付けさせ、視聴覚



教材の有効な活用方法について学ぶ機会が必要であると考ええる。

### 3-5 保健学習に対する感想および授業中の態度

図3は、高等学校での保健学習に対する感想および授業中の態度を示している。図3のとおり、「たのしかった(36.0%)」と回答した者が最も多く、次いで「楽しかった(24.0%)」、「おもしろかった(22.0%)」の順であった。この結果をみると約6割の者が高等学校での保健授業に対してポジティブな感想をもっていることがわかる。一方で、「楽しかった」「つまらなかった(4.0%)」、「授業中は寝ていた(2.0%)」といった消極的な回答をした者が約3割いた。



### 3-6 保健学習に関する現在の活用状況

表2は、高等学校での保健学習に関する現在における活用状況を示している。表2のとおり約7割の者が高等学校の保健学習をもとに自分の生活や身の回りの環境について振り返っていると回答しており、約9割の者が保健の学習内容を自分の生活に活かしていると回答している。いずれも非常に高い値を示しており、概ね高等学校での保健学習の内容が現在の実生活に結びついている学生が多いことがわかる。一方で、大学生活を送る中で健康に関する情報の入手については消極的な学生もおり、大学生に対する保健学習や健康に関する情報の提供を充実させていくことについては今後検討していく必要があると考ええる。

表2 高等学校での保健学習に関する現在の活用状況

質問項目		どちらかと言え ばしている/活 かしている		どちらかと言え ばしていない/ 活かしていない		合計
		している	かしている	していない	活かしていない	
1) 高校の保健学習の内容をもとに自分の生活や身の回りの環境について振り返ったりしていますか。	度数	14	22	9	5	50
	%	28.0	44.0	18.0	10.0	100.0
2) 高校の保健学習の内容を自分の生活に活かしていますか。	度数	18	27	4	1	50
	%	36.0	54.0	8.0	2.0	100.0
3) テレビや新聞、インターネットなどで健康に関する情報を見たり調べたりしていますか。	度数	11	23	10	6	50
	%	22.0	46.0	20.0	12.0	100.0

N=50

表3 健康の価値に関する認識状況

質問項目		そう思う	どちらかと言え ばそう 思う		そう思わない	わからない	合計
			どちらかと言え ばそう 思う	どちらかと言え ば思わない			
1) 健康は何をするにも必要だ	度数	39	11	0	0	0	50
	%	78.0	22.0	0	0	0	100.0
2) 健康は何よりも大切だ	度数	43	5	1	1	0	50
	%	86.0	10.0	2.0	2.0	0	100.0
3) 健康は幸せな生活を送るために重要だ	度数	44	5	1	0	0	50
	%	88.0	10.0	2.0	0	0	100.0

N=50

表4 高等学校での保健授業の学習状況(%)

大項目	項目(単元)	受けた	はっきりしないが 受けたと思う	受けていない	わからない
現代社会と健康	(1) 健康の考え方	68.0	30.0	2.0	0
	(2) 健康の保持増進と 疾病の予防	78.0	20.0	2.0	0
	(3) 精神の健康	88.0	10.0	2.0	0
	(4) 交通安全	84.0	8.0	4.0	4.0
	(5) 応急手当	84.0	14.0	2.0	0
生涯を通じる健康	(6) 生涯の各段階に おける健康	84.0	16.0	0	0
	(7) 保健・医療制度及び 地域の保健・医療制度	70.0	28.0	0	2.0
社会生活と健康	(8) 環境と健康	82.0	18.0	0	0
	(9) 環境と食品の保健	64.0	34.0	2.0	0
	(10) 労働と健康	64.0	32.0	2.0	2.0
平均値の平均 (各項目の平均値の合計÷10)		76.6	21.0	1.6	6.2

### 3-7 健康の価値に関する認識

表3は、現在における健康の価値に関する認識について示している。「健康は何をするにも必要だ」には回答者全員が「必要である」と考えている。一方で、「健康は何よりも大切だ」や「健康は幸せな生活を送るために重要だ」には「どちらかと言えばそう思わない」や「そう思わない」と回答している者がおり、場合によっては健康よりも他に優先すべきことがあると考えている者がいることがわかった。

### 3-8 保健授業の学習状況

表4は、回答者の高等学校での保健授業の学習状況を示している。戸田・笹生(2018)の先行研究を参考に、高等学校学習指導要領での「保健」の内容を大きく3項目に分け、それらをいくつかの単元に分けている。

表4のとおり、『精神の健康』、『交通安全』、『応急手当』、『生涯の各段階における健康』、『環境と健康』では約8割の者が「受けた」と回答しているのに対し、『健康の考え方』、『環境と食品の健康』、『労働と健康』については3割を超える者が「はっきりしないが受けたと思う」と回答しており、単元によって大きな差があることがわかった。

また、『健康の考え方』、『健康の保持増進と疾病の予防』、『精神の健康』、『交通安全』、『応急手当』、『環境と食品の健康』、『労働と健康』については、「受けていない」や「わからない」といった回答もみられた。特に『交通安全』に関しては約1割の者が「受けていない」、「わからない」と回答しており、1つの単元の中で学生の学習状況に大きな差があることがわかった。

この結果から、高等学校で保健学習は9割以上の内容が実施されていることがわかるが、「受けていない」、「わからない」といった回答もみられた。これらの単元については、保健学習の実施状況に懸念が残る結果と言える。

## 4 まとめ

本調査では、至誠館大学に在籍する1年次～3年次の教職課程(中高保健体育)履修者を対象としてアンケート調査を実施した。以下にその結果の要点をまとめた。

1)保健学習に対して多くの学生は前向きなイメージをもっていたが、一部の学生はおもしろさや楽しさについて「そう思わない」と回答していた。学生の保健学習への興味・関心を引き出すためには、教科書やワークシートのみならず視聴覚教材などのICTを積極的に活用しながら授業づくりを進めていくことが有用であると考えられる。

2)今回の回答者では、高等学校の保健学習を現在の生活に活かしている者が多く、健康に関する意識も高いことがわかった。しかしながら、場合によっては健康よりも重要なものがあると認識している学生もいた。

3)高等学校の保健学習は概ね十分に実施されていたが、単元によってはその学習状況に差があることがわかった。

本調査で得られた結果については、学生に高等学校での保健学習を思い出しながら回答の協力を得ている。そのため、回答の正確性に限界はあるが、多くの学生が保健学習の重要性や健康の価値観について肯定的に捉えていることがわかった。一方、保健学習への興味・関心については十分であるとは言えない。本学における教職過程において保健学習を充実させるためには、学生の興味・関心を引き出し、学習意欲を高めるような取り組みがより一層重要であると考えられる。

#### [引用文献]

- 1) 中川明・高橋裕子(2010)「保健体育教師はなぜ保健の授業が苦手なのか?—保健体育科専攻学生の教

材・内容・授業観からの検討－』『愛知教育大学保健  
体育講座研究紀要』35, 63-73

- 2) 日本保健科教育学会(2017)『保健科教育法入門』大  
修館書店, iii-iv

[参考文献]

- 1) 青柳直子(2015)「高等学校における保健学習の現状」  
『茨城大学教育実践研究』34, 123-130
- 2) 戸田芳雄・笹生心太(2018)「高等学校における科目  
保健授業の実態に関する調査報告：女子体育大学生  
と一般大学女子学生との比較」『東京女子体育大学女  
子体育研究所所報』12, 53-60
- 3) 杉山正明(2017)「保健体育科における保健授業の現  
状と改善の方策」について『体育科教育学研究』  
33(2), 67-72
- 4) 小松茂美(2018)「学生へのアンケート結果から  
みた「保健学習」の実状」『松本大学研究紀要』  
16, 143-153